

<センター通信 7月号>

～熊にであつたら～

中津川市地域総合医療センター 野崎 博司

この頃世間では熊と遭遇しさらには傷害事件まで発展するようなニュースが報道されています。ここ中津川でもすでに熊遭遇情報が出ており注意が必要です。しかし、一般的に注意といっても出会ってしまったらどうしようもないような気が…。まずはクマを知るところから始めてみましょう。

日本の熊は？

日本の熊はツキノワグマとヒグマの2種類存在します。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国の山地を生息地としています。



ヒグマ（北海道に生息する）

体長：220cm～230cm

体重：150kg～250kg

ツキノワグマ（本州

と四国に生息する）

体長：110cm～150cm

体重：80～120kg

参照：クマに注意！環境省

ヒグマは森林を主な生息地としますが、木の少ない原野にもでてくることがあります。

ツキノワグマは落葉広葉樹林のあるところを主な生息地としています。東北地方や中部地方では6割以上の地域に、関東、近畿、中国地方では3割程度の地域に、四国は限られた地域にだけ生息しています。

なぜ人里へ？

日本の国土のおよそ4割にクマは生息しており、基本ほとんどが森林ですが主食であるどんぐり類が不作の年は食物を求めてクマの行動範囲が広がり人里へ近づくことがあります。また人里へ降りてくる理由としてごみの不法投棄や、山里を管理する狩人の減少といった事情があります。

クマの生態

クマは聴覚と嗅覚が優れた大型動物で優れた運動能力を有しています。それもそのはず実はイヌやネコと同じネコ目の仲間です。2000万年ほど前から独自の進化をとげており、その特徴として植物を食べるのに適した奥歯に変化しているのが大きな違いです。

◎木登り、穴ほりのために強い力と鋭いツメを持っています。

◎人より速く、時速40km以上で走ることができます。

◎水泳も得意で、木に登ることもできます。

12月～4月まで冬眠します。その後冬眠から覚めると山菜などを食べます。ですのでタケノコ狩りは非常に注意が必要です。6月ごろになると繁殖期を迎え夏にはハチミツや昆虫を探して食べます。家の近くにハチの巣がある場合は早めに除去をした方がいいでしょう。秋になると栄養価の高いドングリ類を食べ蓄えて冬に備えます。

出会わないとは？

- ・ 出没情報のあったところにはなるべく近づかない。また早朝・夜間は出会う可能性が高くなるので注意する。
- ・ クマ鈴など音の出るもので存在を知らせる。携帯アプリにも熊よけ鈴というのがあります。
- ・ クマの隠れ場所になりそうなところに注意する。



参照：クマに注意！環境省

もしクマに出会ってしまったら？

- ・ 遠くにいる場合は、落ち着いてその場から離れる。クマをおどろかせないように静かに立ち去りましょう
- ・ 近くにクマがいる場合は、落ち着いてゆっくりその場から離れましょう。その際背を向けずに立ち去るのがポイント
- ・ すぐ近くで遭遇してしまった場合はあわててないこと。慌てるとクマが驚くので慌てず、クマが立ち去ってからその場から離れましょう。

参考文献

1. クマ類出没対応マニュアル 環境省
2. クマに注意！ 環境省
3. 日本クマネットワーク <http://www.japanbear.sakura.ne.jp/cms/>